

9. 応用生物科学部

I	応用生物科学部の教育目的と特徴	9-2
II	分析項目ごとの水準の判断	9-3
	分析項目 I 教育の実施体制	9-3
	分析項目 II 教育内容	9-7
	分析項目 III 教育方法	9-10
	分析項目 IV 学業の成果	9-13
	分析項目 V 進路・就職の状況	9-17
III	質の向上度の判断	9-20

I 応用生物科学部の教育目的と特徴

[目的]

本学部は、生物科学と生命科学の学理を探究するとともに変貌する社会環境に主体的な対応をし、自ら将来の課題設定を行い、その課題に対して幅広い視野と深い専門的な知識と経験から柔軟かつ総合的な判断を自ら下すことができる能力を培うための教育を組織的に展開することにより、広く生物科学及び産業に貢献できる人材を養成することを目的とする。

[特徴]

本学部が、改組前の農学部と大きく異なる点として、広義の衣食住との関わりを基底において、人類の生存、生活に貢献することを目標とした生物・生命に関する総合科学を教育することであり、「食の安全」、「食の安定」、「環境の保全」、「健康の増進」、「公衆衛生の向上」を目標に教育することである。本学部は、従来培われた農学を基礎とした生物学を積極的に社会に貢献することを目標として設立した学部であり、国際的な変化に伴って変容する社会の教育ニーズに的確に対応することを目指している。そのため、本学部では教育組織と教員組織の分離を行い、教育組織が教員組織に拘束されることなく社会の期待と要請に機敏に対応して教育プログラムを提供できる体制に整備した。教育組織としては食品生命学課程、生産環境学課程と獣医学課程の3教育課程を設け、これとは別に教員組織として1学部1学科4講座制（応用生物科学科：応用生命科学講座・生物生産科学講座・生物環境科学講座・獣医学講座）とした。このことにより、本学部では教員の研究分野にとらわれることなく、国際社会の中で大きな注目を浴び始めている国内の課題である食の安全と安定および食を基盤とした健康の増進や環境の保全、公衆衛生の向上などに関して教育内容を適宜改編しながら的確な教育を行うことが可能となった。

また、獣医学講座では全国の獣医師会など獣医畜産関連業界や、獣医学教育関係者などからの長年にわたる獣医学教育の充実の要望に応え、国立地方獣医系大学に先がけて、従前の25人からなる教員組織から、獣医学教育充実のために全学からの支援を受けて5講座（教授5名、助教授5名）増の体制が認められ、平成17年度には35人（教授15人、助教授14人、助手6人）による獣医学教育体制を充実させた。

このように、農学を基礎とした生物学を、人類の生存、生活に積極的に貢献することを目的とし、社会の期待と要請に機敏に対応して教育、研究を行うことが本学部の特徴である。

[想定する関係者とその期待]

想定する関係者は、卒業後に農業関連産業、食品関連産業、環境関連産業、医薬品関連産業、獣医関連産業などの岐阜大学周辺に位置する産業界に就職して活躍しようとする高校生とその父兄、本学部での教育内容を評価して卒業生の受け入れを希望する上記産業界関係者である。

本学部は、地方に位置する大学としての特長を活かして周辺地域と連携した社会活動を積極的に行っており、地域産業界からの要請に基づいてより社会的ニーズに対応した応用生物科学教育を行い、応用生物科学に関する科学的な思考能力と高度な技術と体系的な知識を身につけた実践的な高度専門職業人を育成することが期待されている。

また、大学周辺地域から本学部を受験、入学し、卒業後に地域産業界で活躍しようとする高校生とその父兄に対して、本学部の教育目的である、自ら課題設定を行い、幅広い視野と深い専門的な知識、経験に基づいて柔軟かつ総合的な判断を下すことができる教育を行い、広く生物科学及び産業に貢献できる人材として養成することが望まれている。

II 分析項目ごとの水準の判断

分析項目 I 教育の実施体制

(1) 観点ごとの分析

観点 基本的組織の編成

(観点に係る状況)

本学部は、教育組織として表 1-1-1 のとおり、食品生命科学課程、生産環境科学課程及び獣医学課程の 3 課程を置き、収容定員 830 人に対し 915 人（平成 19 年度）が在籍している。表 1-1-2 のとおり、食品生命科学課程では、食品生産技術の向上、食品の安全性の確保、機能性食品の開発、生物系有用物質の開発、新エネルギー開発および微生物による環境修復などの分野で活躍できる人材を育成するために、食品科学コースと分子生命科学コースを設定しており、生産環境科学課程では、食料の安定供給、環境調和型食料生産技術、施設生産技術、動物飼養技術の開発、畜産動物や野生動物の管理、環境保全計画および自然保護の分野で活躍できる人材を育成するために、応用植物科学コース、応用動物科学コース、環境生態科学コースの 3 コースを設定している。また、獣医学コースでは動物の診療・健康管理、公衆衛生の維持向上および野生動物の保護管理の分野で活躍できる人材を育成するために獣医学コースを設けている。

前述の教育目的と特徴で記載したように、社会の教育ニーズの変化に対応した教育プログラムを的確に提示するために教育組織と教員組織を分離し、教員組織として応用生物科学科の下に 4 講座を配し（1 学部 1 学科 4 講座制）、具体的には応用生命科学講座（教員配置数 22 人）、生物生産科学講座（30 人）、生物環境科学講座（20 人）及び獣医学講座（35 人）の 4 つの大講座を設けて教育を担当している。

表 1-1-3 のとおり、大学設置基準必要教員数 46 人に対し、平成 19 年度の専任教員数は 103 人で、その内訳は教授 55 人、准教授 35 人、講師 1 人、助教 12 人である。教員 1 人当たりの学生数は、表 1-1-3 のとおり 8.88 人である。

表 1-1-1 岐阜大学学則（抜粋）

第 2 章 教育研究上の基本組織

(学部及び学科・課程)

第 3 条 本学に、次の学部を置き、学部に次の学科・課程を置く。

(略)

応用生物科学部 食品生命科学課程
生産環境科学課程
獣医学課程

(略)

第 3 章 学部教育

第 1 節 教育組織、修業年限及び在学期間等

(教育組織、入学定員及び収容定員)

第 15 条 学部の教育組織、入学定員、3 年次編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科又は課程	入学定員	3 年次編入学定員	収容定員
応用生物科学部	食品生命科学課程	80	5	330
	生産環境科学課程	80	5	330
	獣医学課程	25	5	170
	計	185	15	830

表 1-1-2 応用生物科学部の課程の教育目的

課程名	教育目的
食品生命科学課程	食品生産技術の向上、食品の安全性の確保、機能性食品の開発、食品の流通と管理、生物系有用物質の開発、微生物機能の開発及び微生物による環境修復などの分野で活躍できる人材を育てます。
生産環境科学課程	食料の安定供給の確保、環境保全型食料生産技術・施設生産技術の開発、動物飼養技術の開発、飼養動物と野生動物の管理、地域環境保全計画と自然保護などの分野で活躍できる人材を育てます。
獣医学課程	産業動物臨床、伴侶動物臨床、公衆衛生の維持向上、医薬品開発と実験動物の管理、野生動物の保護管理、基礎生命科学の研究などの動物と人間の健康・福祉に関わる分野で活躍できる人材を育てます。

(出典：岐阜大学応用生物科学部の教育目的を定める細則)

表 1-1-3 専任教員配置数 (平成 19 年 5 月 1 日、単位：人)

収容定員	教 員 数						学生数	教員一人あたりの学生数	大学設置基準必要教員数
	教授	准教授	講師	助教	助手	計			
830	55	35	1	12	0	103	915	8.88	46

(出典：応用生物科学部現員表)

観点 教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制

(観点に係る状況)

教育内容、教育方法の改善に向けての体制として、自己点検評価委員会および教学委員会が中心として実施しており、企画運営委員会において統括して教育内容、教育方法の改善指針を立案している。

実際の取り組みとしては、表 1-2-4 に示すように平成 17 年度から自己点検評価委員会を中心に学生による授業評価アンケート、卒業時アンケートを学部独自に継続的に行い、教育状況についての学生の意見の徴取、集計、分析を行なっている。これらの分析結果は、教学委員会にフィードバックするとともに、個々の教員に対して授業評価アンケート結果を提示し、同時に学部 HP に掲載している。また、この分析結果に基づき FD 研修会を 2 回開催し(平成 18 年 11 月 15 日、平成 19 年 5 月 15 日)、授業改善に努めている。

授業評価アンケートの実施による教育内容、教育方法の改善効果として、授業評価アンケート結果を個々の教員に提示することによって各教員の教育内容、教育方法に対する関心が高まり、また教学委員会を中心とした教育方法改善に対する取り組みが効果を挙げ始めた。例えば、表 1-2-5 に示したとおり、教育職員個人評価(貢献度実績・自己評価表)において、「学生による授業評価」項目で「2(すべての授業評価項目で 3.5 以上)」に該当した教員数が 42.6% に達した。また、表 1-2-6 に示すように、授業評価アンケート結果総合値は平成 17~18 年に比べて平成 19 年度は大きく向上しており、表 1-2-7 に示したとおり、平成 18 年度と 19 年度の後学期に開講された 118 科目のうち、82 科目(69.5%)について総合点(満足度)が 18 年度より上昇し、42 科目(35.6%)は 4 点台の高い評価を受けた(18 年度は 27 科目)。18 年度の総合点が 3.5 以上 4 点未満の評価を受けた 48 科目のうち、35 科目(72.9%)について 19 年度の総合点が前年度より上昇した。このように、授業評価結果に基づく教育内容、方法の改善に対する自己点検評価委員会および教学委員会の取り組みが効果を現している。

教学委員会における教育内容、方法の改善への取り組みとして平成 20 年度には授業公開制度を設け、シラバスに授業公開の有無を掲載し、332 科目中 131 科目(39.5%)の授業で授業公開を受け入れている(資料 1-2-1)。

平成 16 年度当初の獣医学教育は、教授 10 人、助教授 9 人、助手 6 人の計 25 人の教育体制で行われていたが、全学からの支援を受けて他大学に先駆けて獣医学教育の充実に取

り組み、平成 17 年度には、教授 15 人、助教授 14 人、助手 6 人の計 35 人の教育体制を整備して教育分野を拡充し、教育内容を充実させた。

表 1-2-8 に示すとおり、進学塾講師および進学高校長による学部評価および学生動向の検証を行い、学部 FD (約 70 人参加) を開催して各教員への意識啓発を行うとともに、農業系高校の進学指導教員と定期的に懇談し意見徴収に努め、当該意見を授業改善に反映させている。

表 1-2-9 および表 1-2-10 に示すように、これらの教学委員会および自己点検評価委員会などが中心として開催した FD 活動を受けて、自己点検評価委員会、教学委員会、入試委員会で様々な教育内容、方法の改善が図られている。

また、本学部の教育内容の特色の 1 つである地域に根ざした教育にむけての取り組みが評価され、平成 16 年度に「地域協学型の風土保全教育プログラムーぎふ公民館大学ー」が文部科学省現代 GP に採択された (資料 1-2-2)。

表 1-2-4 授業評価等とそのフィードバックの状況

授業評価の組織的実施状況						フィードバックの状況
年度	調査名称	調査時期	調査実施組織	調査内容方法	報告書	
17 年度	授業評価アンケート	半期毎	自己点検評価委員会	授業評価は、すべての開講講義受講者を対象に実施。 卒業時アンケートは、すべての卒業生を対象に実施。	平成 17 年度前・後学期授業評価	自己点検評価委員会において集計・分析を行い、集計結果は全教員に配布するとともに、教員が特定できるコメントは教員にフィードバックしている。分析結果は学部ホームページに掲載し、FD 研修会を平成 18 年 11 月 15 日と平成 19 年 5 月 15 日に 2 回開催した。分析結果は教学委員会において検討し改善に役立てている。
	卒業時アンケート	年度末			平成 17 年度卒業時評価	
18 年度	授業評価アンケート	半期毎			平成 18 年度前・後学期授業評価	
	卒業時アンケート	年度末			平成 18 年度卒業時評価	
19 年度	授業評価アンケート	半期毎			平成 19 年度前・後学期授業評価	
	卒業時アンケート	年度末			平成 19 年度卒業時評価	

表 1-2-5 教育職員個人評価 (貢献度実績・自己評価表) に学生による授業評価の点数別分布

得点	0	1	2	総計
人数 (%)	16 (15.8)	42 (41.6)	43 (42.6)	101 (100)

(0 = 6 項目の活動項目のうち、活動が 0 ~ 1 の場合、1 = 活動が 2 ~ 4 の場合

2 = 活動が 5 以上の場合)

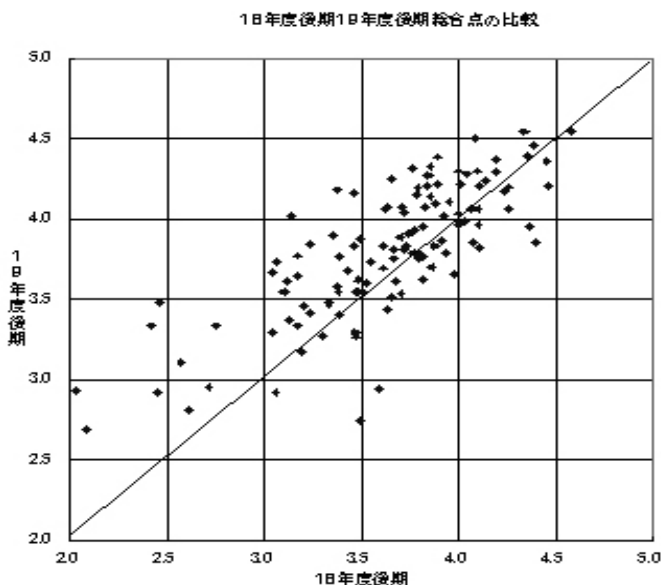
(出典: 評価調査課分析資料)

表 1-2-6 授業評価アンケート結果の集計 (5 段階評価: 1 (劣) から 5 (優))

年度	17		18		19	
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期
授業評価総合値	3.69	3.67	3.67	3.61	3.79	3.77

(出典: 自己点検評価委員会資料)

表 1-2-7 平成 18 年度後期と平成 19 年度後期の総合点の比較



(出典：自己点検評価委員会資料)

表 1-2-8 学外関係者からの意見聴取の実施状況

時期	学外意見聴取対象者	実施方法・内容
平成 17 年 7 月	河合塾	進学塾講師および進学高校長から、学部評価及び学生動向を検証した結果の公表を学部 FD として実施した。
平成 18 年 12 月	岐阜農林、大垣養老、加茂農林、郡上、恵那農業、飛騨高山、阿木高校、グリーンテクノセンター、岐阜県教育委員会	農業系高校については、高校側の進学指導教員と定期的に懇談会を実施し、学外関係者の意見聴取と当該意見の反映に努めている。

(出典：教授会資料)

表 1-2-9 FD 活動が教育改善に反映された事例

年度	事例
16 年度	推薦枠の内容の検討を開始した。
17 年度	出前講義等で活用できる学部紹介資料を作成した。
18 年度	学生の授業評価アンケート FD を実施し、各教員の授業改善に対する意識向上につながり、授業評価アンケートの総合ポイントが上昇した。 FD を受けて、特別選抜入試についての検討を開始した。
19 年度	特別選抜入試の募集定員の改訂準備が整った。 FD でのアンケート調査結果を基に AIMS-Gifu を含めた情報機器を用いた授業実態を把握し、情報機器を用いた授業の促進が図られた。

(出典：自己点検評価委員会、教学委員会、入試委員会資料)

表 1-2-10 教育目標とカリキュラム内容、教育成果の検討改善体制と改善状況

検討体制 (委員会等名)	年度	改善状況
教学委員会 自己点検評価委員会	16 年度	新学部発足の初年度であるから、カリキュラム改正は実施しなかった。
	17 年度	現代 GP (風土保全プログラム) に関する授業科目の履修が可能になるように、規則を改正した。 食品生命科学課程では課程共通科目およびコース専門科目について変更を検討。
	18 年度	①教養基礎の授業科目 (応用生物科学概論) の廃止を決定した。 ②生産環境科学課程では、課程共通科目の変更を検討。 ③生産環境科学課程応用植物コースでは、コース専門科目について変更を検討。
	19 年度	①教養基礎科目の内容の検討を開始した。 ②食品生命科学課程および生産環境科学課程では、課程共通科目およびコース専門科目の見直しを検討。

(出典：教学委員会、自己点検評価委員会資料)

資料 1-2-1	SYLLABUS(2008)抜粋
資料 1-2-2	教育プログラム「地域共学型の風土保全教育プログラムーぎふ公民館大学ー」(平成 16 年度現代 GP 採択)

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

大学設置基準必要教員数 46 人に対し、平成 19 年度の専任教員数は 103 人で、大学設置基準の 2 倍以上の専任教員が配置されており、教員 1 人当りの学生数は 8.88 人である。また、教育組織と教員組織を分離して、社会のニーズに柔軟に対応して教育を実施する体制が整備されており、教育内容、教育方法の改善についても、学生による授業評価、卒業時アンケートを継続的に実施、分析、公開して教育改善に反映させる体制が整備され、機能している。

これらの教育内容、教育方法に対する取り組みは授業を受講する学生からも高く評価され始めており、学生による授業評価ポイントが年度を重ねるごとに着実に向上している。また、本学部の特色ある教育内容である地域に根ざした教育は文部科学省からも高く評価され、平成 16 年度現代 GP に「地域協学型の風土保全教育プログラムーぎふ公民館大学ー」が採択された。

分析項目Ⅱ 教育内容

(1) 観点ごとの分析

観点 教育課程の編成

(観点到に係る状況)

本学部の教育は、「学生に広く知識を授けるとともに、凜乎真摯と自化自育の精神を涵養し、科学的な思考能力と応用生物科学に関する高度な専門的能力を身につけた社会人を育成する」ために、食品生命科学、生産環境科学、獣医学の 3 課程において教養科目・学部開講科目・専門科目を開講しており、教養と専門性に配慮した教育課程を編成している。

具体的には表 2-1-11 に示すように、教養教育推進センターが開講する教養科目 26～32 単位に加えて本学部が開講する新入生セミナーおよび教養基礎科目を 41～46 単位修得させるとともに、専門科目として課程共通科目およびコース専門科目を修得させ、各々の課程において最低修得単位数として 130～186 単位を設定している。

教養教育推進センターで行われている高等学校での未履修科目等についての補習教育(リメディアル教育)に加えて、表 2-1-12 に示したとおり、専門高校からの推薦入学者を対象としたリメディアル教育を学部独自で実施しており、教育課程における教育内容を十分に修得させるための措置を行っている。

専門科目は、表 2-1-13 に示すように、1 年次には 5～7 科目、2 年次には 4～57 科目、3 年次以降には食品生命科学課程および生産環境科学課程では 9～64 科目が開講され、6 年生課程の獣医学課程では 121 科目が開講されており、それぞれくさび形の専門教育が行われている。

表 2-1-11 学士課程における教育課程の編成

		事 項	内 容
教養科目	教養教育推進センター	教育課程編成の考え方	教育目標 1. 人文、社会、自然、語学、スポーツ・健康科学などの分野について幅広い学習をし、人文、社会、自然の全般に関わっての関心と知識を育成する。 2. 今日的で、学際的な総合的問題についての知見を育成する。 3. 諸外国の言語及び文化に対する知識と理解を深める。 4. 情報・技術・生命・環境など今日的な倫理問題に対する関心と理解を深める。 5. 学問の原点である古典への関心と知識を育成する。
		教育課程の編成	全学共通教育科目：個別科目（人文、社会、自然、スポーツ・健康科学） 総合科目 外国語（既修外国語、未修外国語） 自由選択科目 学部開講科目：セミナー 教養基礎
		配当単位	全学共通教育科目：26～32 単位 学部開講科目：2～18 単位
専門科目	応用生物科学部	教育課程編成の考え方	学生に広く知識を授けるとともに、凜乎真摯と自化自育の精神を涵養し、科学的な思考能力と応用生物科学に関する高度な専門的能力を身につけた社会人を育成する。
		授与する学士号	学士（応用生物科学） 学士（獣医学）
		教育課程の編成	食品生命科学課程、生産環境科学課程 教養科目 課程共通科目 コース専門科目 獣医学課程 教養科目 課程共通科目
		配当単位	食品生命科学課程 教養科目 44～46 単位 課程共通科目 46～54 単位 コース専門科目 32～40 単位 生産環境科学課程 教養科目 44 単位 課程共通科目 34～46 単位 コース専門科目 40～52 単位 獣医学課程 教養科目 41～43 単位 課程共通科目 143～145 単位

（出典：応用生物科学部シラバス（授業概要））

表 2-1-12 補充授業の実施状況（抜粋）（平成 19 年度、単位：人）

開設科目	対象者	受講者数
化学	専門高校出身者	6
生物	〃	6
英語	〃	6

（出典：平成 19 年度教学委員会資料）

表 2-1-13 課程専門科目の年次開講数

		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	5 年次	6 年次
食品生命科学課程	課程共通科目	5	33	8	6	—	—
	食品科学コース			32	1	—	—
	分子生命科学コース		4	32	5	—	—
生産環境科学課程	課程共通科目	7	57	5	4	—	—
	応用植物科学コース			60	4	—	—
	応用動物科学コース			50	4	—	—
生態環境科学コース				54	7	—	—
	獣医学課程	5	17	37	41	29	14

（出典：応用生物科学部シラバス（授業概要））

観点 学生や社会からの要請への対応

(観点に係る状況)

本学部では教育組織と教員組織を分離しており、教員組織の改組を行うことなく、学生の履修状況と社会からの要請と必要度を判断した上で、適宜教育内容を見直すことが可能であり、常時教養科目および専門科目の見直しを行っている。

教養科目では平成 18 年に履修科目区分の変更を行うとともに、教養セミナーを教養基礎科目として開講変更を行った。また、教養基礎科目についても平成 18 年に必須・選択科目の指定変更、科目の廃止と新規開講および修得単位数の変更を行うとともに、学生からの要望に応じて、大学入学後の学生生活や授業への取り組みに対する姿勢を教育するために 19 年にはセミナーを新入生セミナーとして開講した(資料 2-2-3)。

専門科目についても、社会からの要請に応じて課程共通科目およびコース科目の見直しを適宜行っており、特に平成 18 年度においては、学生の授業内容の修得を高めるための開講時期の変更や、社会の要請に応じて教育内容を修正するために開講科目の廃止と新設を行った(資料 2-2-4)。

編入学生(3年次編入、転部転科生)については、入学前に他大学および他学部で履修した授業科目についてシラバスを基に授業内容を個別に評価して修得科目として認定するとともに、教養科目および専門基礎科目については一括認定を行って、専門関連科目(コース科目)の積極的な履修に対する便宜を図っている。

また、学生の多様なニーズ等に対応し、中学校や高等学校教職免許取得のために、学部開講科目に加えて表 2-2-14 に示すように教育学部で受講した教職科目の単位も認定している。また、学生および社会からの要請に対応して充実したインターンシップを実施しており、表 2-2-15 に示すとおり、平成 19 年度には 77 の企業等に学生を派遣し 111 人の単位を認定した。表 2-2-16 に示すとおり、学生はインターンシップに対して高い評価を与えており、平成 18 年度の受講者 74 人のうち 73 人が有意義であったと評価している。

表 2-2-14 他学部の授業科目の履修状況(平成 19 年度、単位：人)

他学部の授業科目履修		
受講者数	学部名	受講科目名
5	教育学部	教育思想論
6	〃	教育心理学
9	〃	理科教育法Ⅰ
1	〃	理科教育法Ⅲ
5	〃	生徒指導・進路指導
7	〃	カリキュラム論
3	〃	特別活動と学級経営
7	〃	教育臨床心理学
8	〃	理科教育法Ⅱ

(出典：平成 19 年度教学委員会資料)

表 2-2-15 インターンシップ実施状況

年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
農学部	104	65	28	30
応用生物科学部	0	0	60	81
計	104	65	88	111

(出典：教学委員会資料)

表 2-2-16 インターンシップの学生評価結果

	受講者数	インターンシップ・体験学習等は有意義でしたか			
		とても有意義であった	有意義であった	あまり有意義でない	有意義でない
回答者数(人)	74	37	36	1	0

(出典：平成 18 年度学修と学生生活アンケート)

資料 2-2-3	平成 18 年度教授会資料の抜粋 (別表第 2)
資料 2-2-4	平成 18 年度教授会資料の抜粋 (別表第 3)

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

学生が履修する教育内容について、教養科目・学部開講科目・専門科目を学年次ごとに配置して開講するとともに、教養と専門性に配慮した教育課程を編成してくさび形の専門教育を行い、最低修得単位数を明示している。

教育組織と教員組織の分離によって、学生の履修状況と社会からの要請と必要度を判断した上で、適宜教育内容を見直すことが可能であり、常時教養科目および専門科目の見直しを行っている。

学生の多様なニーズ等に対応して専門高校出身者や編入学生に対する対応を適切に行い、積極的な履修に対する便宜を図っている。また、社会からの要請に対応して積極的にインターンシップを導入しており、受講した学生からも有意義であったとの高い評価を受けている。

このような学生や社会からの要請への対応は高く評価され、本学部の教育が、この分野を目指す受験生から一定の期待と支持を得ている。

分析項目Ⅲ 教育方法

(1) 観点ごとの分析

観点 授業形態の組合せと学習指導法の工夫

(観点に係る状況)

本学部の教育目的に照らし、全開講科目 308 科目は、表 3-1-17 のとおり、講義 (224 科目 72.7%)、演習 (22 科目、7.1%)、実験 (20 科目、6.5%)、実習 (42 科目、13.6%) とバランスの取れた授業形態の組み合わせになっている。教育目的に沿った教育課程を編成し、学生の授業評価アンケートや卒業時アンケートによって学生の意見を聴取し授業改善やシラバス作成に反映させている。

学習指導法の工夫としては、表 3-1-18 に示すとおりフィールド型授業として 9 科目、9 クラスが開講され 376 人が受講し、情報機器を利用した授業としては表 3-1-19 に示すとおり 12 科目 9 クラスに 281 人が受講し、表 3-1-20 に示すとおり、学生アンケートにおいて「所有している PC を授業等に活用しているか」との問に対して 256 人の回答者のうち 217 人 (84.8%) が活用していると回答し、情報機器を利用した授業が学生に定着している。さらに、表 3-1-21 に示すとおり、少人数授業としては 3 科目、6 クラスに 124 人が受講している。表 3-1-22 に示すとおり、実験・実習では積極的に TA を活用し、個別指導ができる体制を組んでいる。TA を活用した実験・実習における個別指導は受講生に高く評価されており、表 3-1-23 に示すとおり、学生アンケートにおける「TA を活用した授業を受けて、TA 制度はよいと思いますか」の質問に対して、回答者 172 人のうち 162 人 (94.2%) が高く評価している。

本学部は地域科学部の共同による地域に軸足を置いた教育プログラム「地域共学型の風土保全教育プログラムーぎふ公民館大学ー」(平成 16 年度現代 GP 採択)を開講し、地域社会と大学の教員-学生が協同して、公民館等を利用して地域と直接的に接触して学習し、地域の暮らしを守り、後継者を育成できる人材を育てる特色ある教育を実施している。(前掲資料 1-2-2 んぎふ公民館大学)

少人数教育の実施のために教学委員会内に実験室等 WG を立ち上げて実験室の利用時間を調整することによって、少人数クラスの学生実験を2回行うなどの対応を行っている。また、獣医学課程におけるテュートリアル導入やフィールド科学実習におけるプロジェクト実習の導入など、実験・実習を含めた少人数クラスでの教育に積極的に取り組む体制が完備されている。

表3-1-17 全開設科目に係る授業形態ごとの授業科目数（平成19年度）

科目数						
講義	演習	実験	実習	実技	その他	計
224	22	20	42	0	0	308

（出典：応用生物科学部履修案内等）

表3-1-18 フィールド型授業の科目数、クラス数、受講者、単位、クラス（平成19年度）

科目数	クラス数	受講者数	単位数	主な授業科目
9	9	376	9	フィールド科学実習Ⅰ、牧場実習（生環）、牧場実習（獣医）、夏季フィールド実習、樹木識別実習、草木識別実習、鳥類識別実習、昆虫識別実習、水棲生物識別実習

（単位数は、科目数に係る合計単位数を表す。）（出典：AIMS-Gifu）

表3-1-19 情報機器を利用した授業の科目数、クラス数、受講者、単位（平成19年度）

科目数	クラス数	受講者数	単位数	主な授業科目
12	9	281	10	情報処理演習

（単位数は、科目数に係る合計単位数を表す。）（出典：AIMS-Gifu）

表3-1-20 所有PCの授業等での活用（学生アンケート）

	所有しているPCは、授業等に活用していますか			
	活用している	活用していない	無回答	計
回答者数（人）	217	39	13	269

（出典：平成18年度学修と学生生活アンケート）

表3-1-21 少人数授業の科目数、クラス数、受講者、単位（平成19年度）

科目数	クラス数	受講者数	単位数	主な授業科目
3	6	124	8	獣医学基礎演習、総合実習、総合臨床実習

（単位数は、科目数に係る合計単位数を表す。）（出典：AIMS-Gifu）

表3-1-22 TAを活用した科目数と採用数

	16年度		17年度		18年度		19年度	
	科目数	採用数	科目数	採用数	科目数	採用数	科目数	採用数
科目および人数	46科目	130人	42科目	130人	35科目	115人	41科目	136人

表3-1-23 TA制度に対する学生評価（学生アンケート）

	TAを活用した授業を受けて、TA制度はよいと思いますか			
	良いと思う	良いと思わない	無回答	計
回答者数（人）	162	10	97	269

（出典：平成18年度学修と学生生活アンケート）

観点 主体的な学習を促す取組

（観点に係る状況）

講義の修得に関する自宅学習時間（2単位30時間の講義に対する60時間の自宅学習）を確保するため、過剰な履修登録を防ぐために履修科目の上限を設定している（CAP制）。また、表3-2-24に示すとおりGPA制を導入し、GAPを適用することによって飛び級、早期卒業、学内表彰制度等の判定を行っており（表3-2-25、3-2-26）、学生の勉学

の励みになるよう配慮している。18年度後学期の授業時間割表を全面的に改正し、開講されていない時間帯を自学自習時間と表記し、学生が自学自習の観念を自覚するよう工夫した。18年度は自学自習の精神を涵養するために、表3-2-27に示すとおり、平成18年度にグループ学習室とコミュニケーションルームを新たに設置した。

図書館の積極的な利用による自学自習の効率を上げるために、少人数教育プログラムの基に開講されている新入生セミナーにおいて平成19年度から図書館ツアーを、表3-2-28のとおり実施している。

表3-2-24 GPA (Grade Point Average)制度による評価

評価	評価基準	評価点
優 (AA)	100~90点	4
優 (A)	89~80点	3
良 (B)	79~70点	2
可 (C)	69~60点	1
不可 (D)	59~0点	0

成績をより明確にするため、上記の成績評価を基にGPAの値を算出し、指導上の参考にする。

$$GPA = \frac{4 \times AA \text{科目数} + 3 \times A \text{科目数} + 2 \times B \text{科目数} + 1 \times C \text{科目数}}{AA \text{科目数} + A \text{科目数} + B \text{科目数} + C \text{科目数}}$$

(出典：SYLLABUS(2008))

表3-2-25 飛び級および早期卒業学生数

年度	16	17	18	19
飛び級	1	0	1	0

(出典：教学委員会資料)

表3-2-26 学生表彰制度 (平成19年度)

	食品生命科学課程	生産環境科学課程	獣医学課程
学長表彰	1人		
学部長表彰	1人	1人	1人
同窓会会長表彰	1人	1人	1人
獣医師会表彰	—	—	1人

(出典：平成19年度教学委員会資料)

表3-2-27 自主的学習環境の整備状況 (グループ学習室及びコミュニケーションルーム)

	16年度	17年度	18年度	19年度
応用生物科学部	—	—	・コミュニケーションルーム4室 ・グループ学習室3室	・コミュニケーションルーム3室 ・グループ学習室3室

(出典：SYLLABUS)

表3-2-28 新入生セミナーにおける図書館ツアー実施状況

新入生セミナー	平成19年度
Aクラス	2007.04.16 16:10~17:30
Bクラス	2007.04.16 16:10~17:30
Cクラス	2007.04.23 16:10~17:30
Dクラス	2007.04.23 16:10~17:30
Eクラス	2007.05.07 16:10~17:30
Fクラス	2007.05.07 16:10~17:30
Gクラス	2007.05.14 16:10~17:30
Hクラス	2007.05.14 16:10~17:30

(出典：平成19年度教学委員会資料)

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

本学部の教育目的に応じて講義、演習、実験、実習をバランス良く組み合わせた教育体系が整備されており、フィールド型授業や情報機器を利用した授業、さらに少人数授業にも取り組み、実験・実習では積極的に TA を活用して個別指導が行われている。情報機器を利用した授業において、学生は所有している PC を充分活用しており、さらに、実験・実習における TA を活用した個別指導に対して学生から高く評価されている。

学部の特性を活かした地域に軸足を置いた教育が文部科学省に評価され、平成 16 年度の現代 GP に採択された。

教員や大学院生との懇談による自学自習の精神を涵養する目的でコミュニケーションルーム 3 室やグループ学習室 4 室を 18 年度に設置するとともに、授業時間割表に自学自習時間を表記し、学生が自学自習の観念を自覚するよう工夫している。

分析項目Ⅳ 学業の成果

(1) 観点ごとの分析

観点 学生が身に付けた学力や資質・能力

(観点に係る状況)

表 4-1-29 に示すとおり、入学した学生の 90% 前後は学位を取得して卒業している。また、表 4-1-30 に示すとおり、年度ごとの進級率でみた場合でも同様にほとんどの学生が進級している。表 4-1-31 に示すとおり、単位取得率は 95% 以上と高く、獣医学課程以外の 2 課程での「優」の取得率は 60%、獣医学課程では 70% 以上と高く、教員が設定した学習到達度を上回る学習達成度を示している。学生自身が設定した学習達成度目標に対する達成状況についても、表 4-1-32 に示したように、「達成できた」と「ほぼ達成できた」の合計は 76.9% と極めて高く、学業の成果が着実に挙がっている。

表 4-1-33 に示したとおり、平成 18 年度卒業時アンケートにおいて「大学で身につけたと思うのはどれですか」の問に対して、上位を占めたのは課題設定・問題解決能力 (15.1%)、実験・研究能力 (13.4%)、判断・洞察能力 (11.2%)、論理的思考力 (10.3%)、プレゼンテーション能力 (8.6%)、対人関係能力 (8.2%) などが挙げられている。本学部では、教育目的として、「自ら将来の課題設定を行い、その課題に対して幅広い視野と深い専門的な知識と経験から柔軟かつ総合的な判断を自ら下すことができる能力を培う」ことを掲げており、本学部での専門科目および卒業研究を通じた教育によってこれらの資質・能力を修得させることが出来た。

学生が取得した資格については、表 4-1-34 に示したとおり、中学校 1 種免許状 (理科)、高等学校 1 種免許状 (理科)、高等学校 1 種免許状 (農業) を取得する学生が毎年多数いた。獣医学課程においては獣医師の免許取得率が 90% 以上とほぼ全員が取得しており、動物の診療・健康管理、公衆衛生などに関する学力や資質・能力を修得させることが出来た。

また、国際的な問題に対して的確に対応できる能力の一つとして、卒業時の語学力を高めるために平成 19 年度には大学内で実施した TOEIC-IP 試験への受験を促し、全学受験者の 22.0% に相当する 214 人の学生が受験し、表 4-1-35 に示すように、全学平均点を上回る得点を示した。

表 4-1-29 学位取得状況

学部	入学年度 (卒業年度)	入学者数	学位取得	
			学位取得者数(人)	取得率(%)
応用生物科学部 (獣医以外)	H13(H16卒)	164	142	86.6
	H14(H17卒)	171	154	90.1
	H15(H18卒)	171	139	81.3
応用生物科学部 (獣医)	H11(H16卒)	30	29	96.7
	H12(H17卒)	25	25	100.0
	H13(H18卒)	25	22	88.0

表 4-1-30 段階毎の目標到達度(進級率)

	16年度	17年度	18年度	19年度
応用生物科学部	(学年進行中) 関門: 食品生命科学課程 4年次進級時 進級率 — 生産環境科学課程 3年次進級時 進級率 — 獣医学課程 3年次、5年次 進級時 3年次進級率 — 5年次進級率 —	(学年進行中) 関門: 食品生命科学課程 4年次進級時 進級率 — 生産環境科学課程 3年次進級時 進級率 93.8% 獣医学課程 3年次、5年次 進級時 3年次進級率 93.1% 5年次進級率 —	(学年進行中) 関門: 食品生命科学課程 4年次進級時 進級率 89.2% 生産環境科学課程 3年次進級時 進級率 97.8% 獣医学課程 3年次、5年次 進級時 3年次進級率 100% 5年次進級率 —	(学年進行中) 関門: 食品生命科学課程 4年次進級時 進級率 93.0% 生産環境科学課程 3年次進級時 進級率 97.6% 獣医学課程 3年次、5年次 進級時 3年次進級率 100% 5年次進級率 100%

表 4-1-31 単位取得及び成績評価の状況(単位:人、%)

学部名	年度	全学生の 履修登録 科目数	左記のう ち単位修 得科目数	取得率 %	成績評価の状況 %				
					「優」 の数	「良」 の数	「可」 の数	「不可」 の数	計
応用生物科学部 (獣医以外)	H16	13,000	12,417	95.5	58	23	15	4	100
	H17	12,348	11,749	95.1	56	25	14	5	100
	H18	13,605	13,052	96.0	58	24	14	4	100
	H19	14,122	13,665	96.8	59	25	13	3	100
応用生物科学部 (獣医)	H16	2,957	2,928	99.0	75	16	8	1	100
	H17	2,946	2,866	97.3	71	17	9	3	100
	H18	3,073	3,040	98.9	70	18	11	1	100
	H19	3,181	3,132	98.5	70	19	9	2	100

表 4-1-32 学習達成度目標の達成状況

	昨年度の「設定した学修達成目標」を達成できましたか						計
	達成できた	ほぼ達成 できた	達成できて いない 部分が多い	達成できて いない	学修達成 目標を設定 していない	無回答	
回答者数 (%)	99 (36.8%)	108 (40.1%)	29 (10.8%)	8 (3.0%)	23 (8.6%)	2	269

(出典:平成18年度学修と学生生活アンケート)

表 4-1-33 大学で身につけた能力(平成18年度卒業アンケート)

項目	課題設定 問題解決 能力	実験 研究能力	判断 洞察能力	論理的 思考力	プレゼンテー ション能力	対人関係 能力	自己学習 能力
回答者数 (%)	35 (15.1%)	31 (13.3%)	26 (11.2%)	24 (10.3%)	20 (8.6%)	19 (8.2%)	18 (7.8%)
項目	気力 忍耐力	指導力	先端的 専門知識	国際感覚	英語運用力	体力	計
回答者数 (%)	18 (7.8%)	14 (6.0%)	10 (4.3%)	7 (3.0%)	5 (2.2%)	5 (2.2%)	232 (100.0%)

(出典:平成18年度卒業時・修了時評価)

表 4-1-34 資格取得者数

入学年度 (卒業年度)	卒業者数 修了者数	取得資格名及び取得者数	
H13(H16卒)	142人	中学校1種免許状(理科)	7人
		高等学校1種免許状(農業)	9人
		高等学校1種免許状(理科)	17人
H14(H17卒)	154人	中学校1種免許状(理科)	3人
		高等学校1種免許状(農業)	14人
		高等学校1種免許状(理科)	23人
H15(H18卒)	139人	中学校1種免許状(理科)	1人
		高等学校1種免許状(農業)	9人
		高等学校1種免許状(理科)	8人
H16(H19卒)	154人	高等学校1種免許状(農業)	12人
		高等学校1種免許状(理科)	4人
H11(H16卒)	29人	獣医師免許	29人 (100.0%)
H12(H17卒)	25人	獣医師免許	25人 (100.0%)
H13(H18卒)	22人	獣医師免許	20人 (90.9%)
H14(H19卒)	23人	獣医師免許	21人 (91.3%)

(出典：平成19年度教学委員会資料)

表4-1-35 学内TOEIC-IPの受験者(平成19年度)

	1年		2年		3年		4年		全体	
	学部	全学	学部	全学	学部	全学	学部	全学	学部	全学
最高点	720	885	600	920	690	900	760	910	760	920
最低点	335	265	225	225	210	195	275	265	210	195
平均点	430.3	456.2	455.0	469.5	416.5	391.0	456.6	441.0	431.7	414.9
標準偏差	83.7	116.7	87.1	128.0	92.5	101.7	98.9	121.1	95.4	115.8
受験者数	19	95	29	87	131	579	28	81	214	972

(出典：平成19年度教学委員会資料)

観点 学業の成果に関する学生の評価

(観点に係る状況)

表4-2-36の卒業時アンケート結果に示したとおり、学生の専門科目に対する勉学意欲についての評価結果では、「専門科目は総じて良く勉強したか」の設問に対し、学部全体で58.0%の学生が肯定的回答をしており、教養科目に比べ27ポイントほど高く、専門教育方法や内容は学生によって高く評価されていると判断される。また、前出の表4-1-33に示したように、卒業時アンケートにおける大学で身につけた能力についての設問では、課題設定・問題解決能力(15.1%)、実験・研究能力(13.4%)、判断・洞察能力(11.2%)、論理的思考力(10.3%)、プレゼンテーション能力(8.6%)、対人関係能力(8.2%)などを挙げており、「科学的な思考能力と高度な技術と体系的な知識を身につけた人材を育成する」を教育目的とする本学部の教育に対する学業の成果に対して適切な学生の評価を受けている。「各講義や実習の内容は理解できた」との設問に対して、講義では学部全体で62.6%、実習は73.0%が肯定的回答をしており、否定的回答は講義で6人(3.8%)、実習で5人(3.2%)と極めて少なかった。さらに、「興味のもてる専門分野を見つけることができた」との設問に対しては、学部全体で70.7%が肯定的(「強く思う」と「思う」)に回答し、同様に「卒業研究指導は適切であったか」に対して69.1%の学生が肯定的に、同様に「卒業研究テーマに満足している」の設問に対して69.2%の学生が肯定的に回答している。さらに、「本学部・学科で学んだことを誇りに思う」との問いに対して65.8%の学生が肯定的に回答している。

表4-2-37に示したとおり、平成19年度の本学部卒業生の応用生物科学研究科への大学院進学率は36%と高く、学部で修得した学業成果をさらに発展させて、より高い科学的な思考能力と高度な技術を修得しようとしている。

表 4-2-36 卒業時アンケート結果

項目	専門科目は総じてよく勉強した					
	強く思う	思う	どちらとも言えない	思わない	全く思わない	計
回答者数(%)	27(17.4%)	63(40.6%)	49(31.6%)	13(8.4%)	3(1.9%)	155(100%)
項目	教養科目は総じてよく勉強した					
	強く思う	思う	どちらとも言えない	思わない	全く思わない	計
回答者数(%)	8(5.7%)	36(25.7%)	49(35.0%)	29(20.7%)	17(12.1%)	140(100.0%)
項目	各講義や実習の内容は理解できた(講義)					
	強く思う	思う	どちらとも言えない	思わない	全く思わない	計
回答者数(%)	16(10.3%)	81(52.3%)	52(33.5%)	5(3.2%)	1(0.7%)	155(100.0%)
項目	各講義や実習の内容は理解できた(実習)					
	強く思う	思う	どちらとも言えない	思わない	全く思わない	計
回答者数(%)	40(25.6%)	74(47.4%)	37(23.7%)	4(2.6%)	1(0.7%)	156(100.0%)
項目	興味のもてる専門分野を見つけることができた					
	強く思う	思う	どちらとも言えない	思わない	全く思わない	計
回答者数(%)	50(31.8%)	61(38.9%)	35(22.3%)	5(3.2%)	5(3.2%)	157(100.0%)
項目	卒研指導は適切であった					
	強く思う	思う	どちらとも言えない	思わない	全く思わない	計
回答者数(%)	46(29.7%)	61(39.4%)	33(21.3%)	8(5.2%)	5(3.2%)	155(100.0%)
項目	卒研テーマに満足している					
	強く思う	思う	どちらとも言えない	思わない	全く思わない	計
回答者数(%)	46(29.5%)	62(39.7%)	34(21.8%)	6(3.8%)	5(3.2%)	156(100.0%)
項目	本学部・学科で学んだことを誇りに思う					
	強く思う	思う	どちらとも言えない	思わない	全く思わない	計
回答者数(%)	34(21.9%)	68(43.9%)	44(28.4%)	6(3.9%)	3(1.9%)	155(100.0%)

(出典：平成18年度卒業時・修了時評価)

表 4-2-37 大学院進学者数(率)の推移

	平成16年度卒業生	平成17年度卒業生	平成18年度卒業生
農学研究科	53人(203人の26%)	76人(209人の36%)	53人(186人の29%)
生物資源生産学専攻	16人	20人	13人
生物生産システム学専攻	8人	19人	7人
生物資源利用学専攻	29人	37人	33人

	平成19年度卒業生
応用生物科学研究科	76人(209人の36%)
資源生命科学専攻	40人
生物環境科学専攻	36人

(出典：大学院委員会資料)

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

学生自身が設定した学習達成度目標達成状況および教員が設定した学生の学習到達度も高く、入学した学生の90%前後は学位を取得して卒業している。学生に対する卒業時アンケート結果において、専門科目に対する高い勉学意欲のもとで修学しており、講義の理解度も高い。専門科目での知識の修得後に行われる卒業研究においても、興味をもてる専門分野を見つけ、適切な卒業研究指導のもとで卒業研究テーマに基づいて研究を行っている。これらの専門教育によって、課題設定・問題解決能力、実験・研究能力、判断・洞察能力、論理的思考力、プレゼンテーション能力、対人関係能力などを学び、本学部で学位を取得して卒業した学生は本学部の教育目的である「科学的な思考能力と高度な技術と体系的な知識を身につけた人材を育成する」に合致した学力や資質・能力を修得している。本学部卒業生の応用生物科学研究科への大学院進学率は高く、学部で修得した学業成果をさらに発展させて、より高い科学的な思考能力と高度な技術を修得しようとしている。

学生が取得した資格では、獣医学科卒業生のほぼ全員が獣医師の免許を取得しており、中・高校1種免許状の他、TOEICには19年度に214人の学生が受験した。

17年度から定期的に学業の成果に関する学生の評価を実施しており、自己点検評価委員会において分析し、授業担当全教員へのフィードバックを行うとともに、FDを開催して授業改善に役立てている。これらの学生からの授業評価を受けることによって着実に授業改善効果が現れてきている。

分析項目Ⅴ 進路・就職の状況

(1) 観点ごとの分析

観点 卒業(修了)後の進路の状況

(観点に係る状況)

表5-1-38に示すとおり、学部全体で平成19年度は入学者203人に対し179人(88%)が卒業し、82人(46%) (他大学進学者を含む) が進学、89人(50%) が就職した。学部卒業後の大学院進学率は、6年制の獣医学を除くと42.7%(卒業者に対する割合は48.7%)と高く、学部で修得した知識・技術をさらに発展させたいとする進学意欲が高いことが判る。就職者のうち6人が研究職、63人が技術職で、両者をあわせた69人(77.5%)が専門技術職としての進路を選択した。表5-1-39に示すように、16~18年度の非専門職就業率は食品生命科学課程では10~15%と低く推移し、生産環境科学課程では16年度が22.5%とわずかに高かったものの18年度まで減少して15%となった。また、技術者就業率についてみると、平成16年度は両課程ともに3カ年で最も低く、食品生命科学課程で68%、生産環境科学課程では36%であったが、17・18年は向上して食品生命科学課程では75%前後、生産環境科学課程60%前後まで向上し、両課程ともに専門職としての進路選択が増加し、本学部が養成しようとする人材像に合った進路・就職先となっている。

就職者89人の就職先の所在地については、表5-1-40に示すとおり、51人(57%)が愛知県、10人(11%)が岐阜県であり、この2県で実に68%を占める。

表5-1-38 平成19年度学位取得者(留年経験のある者及び3年次編入生を除く)の進路状況

	入学年度 (卒業年度)	入学者数	卒業者数	進学者数	就職者数	就職職種		
						研究職	技術職	事務職
応用生物科学部 (獣医以外)	H16 (H19卒)	178	156	76	74	5	49	20
農学部 (獣医)	H14 (H19卒)	25	23	6	15	1	14	0
計		203	179	82	89	6	63	20

表 5-1-39 非専門職就業率及び技術者の割合

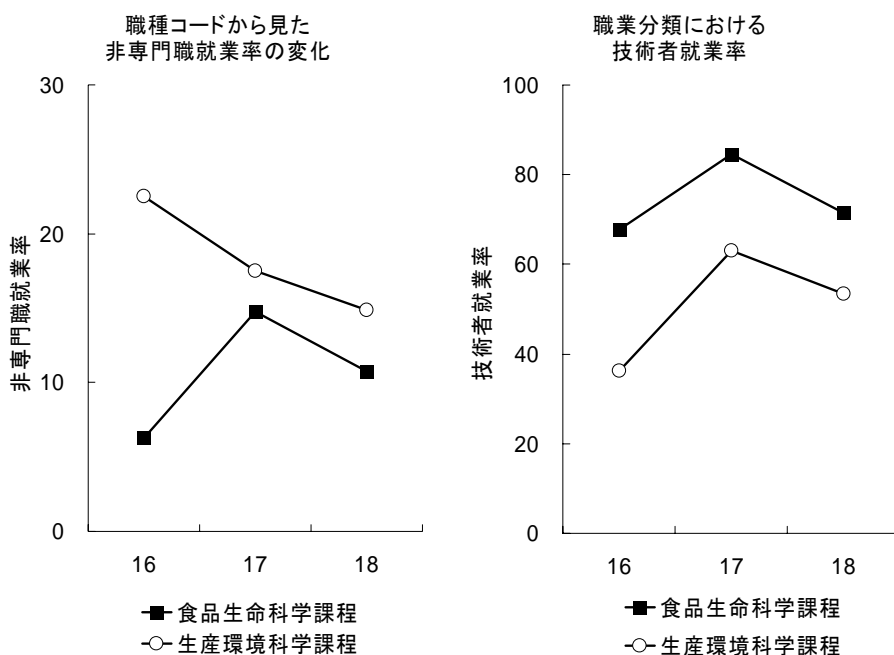


表 5-1-40 平成 19 年度学位取得者（留年経験のある者及び 3 年次編入生を除く）の就職先都道府県

愛知県	51
東京都	11
岐阜県	10
大阪府	3
三重県	2
千葉県	2
その他 10 県	各 1

単位：人

観点 卒業(修了)後の進路の状況

(観点に係る状況)

表 5-2-41 に示したとおり、平成 18 年度卒業時アンケートにおいて、「希望する進路先に進めた（「強く思う」と「思う」の計）」と回答した学生は 71.3% に達し、否定的な回答をした学生は 150 人中 12 人で、卒業後の就職にあたって高く評価している。また、前出の表 5-1-38 に示したように、6 年制の獣医学を除く大学院進学率は卒業者の 48.7% に達し、学部で修学した知識・技術をさらに発展させようとする意欲の高い学生が多い。

また、「進路先は学んだ専門分野と関連性が高い」と回答した学生は 60.3% に達しており、否定的な回答をした学生は 146 人中 12 人で、学部で修学した知識・技術を最大限活かすことの出来る職に就いている。

表 5-5-42 に示したとおり、就職者 89 人に対して民間企業 1674 社、農協等 165 団体、地方公務員 123 件の求人があり、本学部卒業者に対する関連産業界からの評価、期待のことが判る。なかでも地域別にみると、愛知県、岐阜県を中心とした東海北陸地方が全体の 34.2% を占めており、岐阜大学の近隣の産業界からの期待が大きいことが伺える。

また、平成 16 年度以降は実施していないため参考結果ではあるが、平成 15 年 3 月に獣医学科 9～13 年度卒業生を対象に企業人としての観点から大学・学部評価をした結果、「卒業研究で学んだ事が現在の仕事に役立っている」かの問いに対し回答者 72 人中 26 人(37%) が肯定的回答したに過ぎないが、53 人(74%) の者は「講座(研究室)で学んだことが現在の仕事に役立っている」と回答し、講座で学んだことを高く評価している。

表 5-2-41 卒業時アンケート結果

項目	希望する進路先に進めた						計
	強く思う	思う	どちらとも言えない	思わない	全く思わない	回答保留	
回答者数 (%)	72 (48.0%)	35 (23.3%)	28 (18.7%)	9 (6.0%)	3 (2.0%)	3 (2.0%)	150 (100%)
項目	進路先は学んだ専門分野と関連性が高い						計
	強く思う	思う	どちらとも言えない	思わない	全く思わない	回答保留	
回答者数 (%)	61 (41.8%)	27 (18.5%)	36 (24.7%)	4 (2.7%)	8 (5.5%)	10 (6.8%)	146 (100%)

(出典：平成 18 年度卒業時・修了時評価)

表 5-2-42
平成 19 年度求人件数

地区又は都道府県	民間企業			地方公務員	農協等団体	合計 (%)
	大企業	中企業	小企業			
北海道	14	7	7	4	2	34 (1.7)
東北	9	5	3	6	5	28 (1.4)
関東(東京を除く)	67	26	37	18	14	162 (8.3)
東京	322	205	94	5	35	661 (33.7)
甲信越	3	3	4	4	6	20 (1.0)
北陸	10	12	5	6	7	40 (2.0)
静岡	11	9	15	3	1	39 (2.0)
愛知	146	150	89	12	36	433 (22.1)
岐阜	18	38	36	7	24	123 (6.3)
三重	6	9	8	7	6	36 (1.8)
近畿	82	90	52	26	17	267 (13.6)
中国	8	21	12	6	5	52 (2.7)
四国	2	4	1	3	4	14 (0.7)
九州・沖縄	15	6	13	16	3	53 (2.7)
計	713	585	376	123	165	1962

(出典：平成 19 年度進路ガイドブック「めばえ&巣立ち」)

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

6 年制の獣医学を除く 2 課程の卒業者の 48.7% が大学院に進学し、学部で修得した知識・技術をさらに発展させたいとする学生の勉学意欲が高い。就職者のうち 77.5% が専門技術職としての進路を選択し、非専門職就業率は 10~15% と低く、本学部が養成しようとする人材像に合った進路・就職先となっている。

卒業時アンケートから、71.3% が「希望する進路先に進めた」と回答し、「進路先は学んだ専門分野と関連性が高い」と回答した学生も 60.3% に達しており、学部で修学した知識・技術を最大限活かすことの出来る職に就いている。

就職者 89 人に対して、民間企業からの求人件数が平成 19 年度は 1674 社に達し、このほか農協等 165 団体、地方公務員 123 件の求人募集があり、本学部卒業者に対する関連産業界からの評価、期待が高い。なかでも愛知県、岐阜県を中心とした東海北陸地方が全体の 34.2% を占め、岐阜大学の近隣の産業界からの期待は大きい。

Ⅲ 質の向上度の判断

①事例1「獣医学教育の充実」(分析項目Ⅰ)

(質の向上があったと判断する取組)

平成16年当初、獣医学教育は教授12人、助教授・講師7人、助手5人の計24人の教育体制で行われていたが、全学からの支援を受けて他大学に先駆けて獣医学教育の充実に取り組み、教授14人、准教授12人、助教5人の計31人の教育体制を整備して教育分野を拡充し、教育内容を充実させた。獣医学課程は6年制であるため、教育内容、体制の整備後の学生が卒業年度には至っておらず、獣医師免許の取得状況などの具体的な成果には至っていないものの、獣医学基礎演習(テュートリアル教育)、総合臨床実習(ポリクリ)などの少人数授業の充実が図られている。

②事例2「応用生物科学部への改組に伴う農学部からの年次進行」(分析項目Ⅰ、Ⅱ)

(質の向上があったと判断する取組)

農学教育に対する社会的変化に対応して平成16年4月に農学部を応用生物科学部に改組した。従前の農学部は教育組織と教員組織が一体となっており、教育組織が教員組織に拘束されて社会の要請に機敏に対応し難い欠点があった。応用生物科学部では教育組織と教員組織を分離して教育組織として課程制を採用し、課程には専門性の高い専門関連科目(コース科目)を設け、学生にとって最適な教育内容を担当できる多様な専門性を有する教員が逐次専門関連科目(コース科目)の教育を行い、幅広い教育内容を教授することができた。教育組織と教員組織を分離したことによって、教員組織の改組を行うことなく、学生の履修状況と社会からの要請と必要度を判断した上で、適宜教育内容を見直すことが可能となり、平成18年度以降、順次社会からの要請と必要度、学生の履修状況に応じて教育の実施体制、教育内容、教育方法の改善を適宜行っており、学生による授業評価アンケート結果においても評価の向上がみられている。

③事例3「学生による授業評価アンケートの実施」(分析項目Ⅰ、Ⅲ、Ⅳ)

(質の向上があったと判断する取組)

自己点検評価委員会が主体となって平成17年度から全科目を対象に学生による授業評価アンケートを実施し、教学委員会とともに教育内容、教育方法の改善にむけた体制整備を図っている。授業評価を実施していなかった平成16年度時点では、教育内容や方法に関して組織的な改善指針が立てられず、授業改善は個々の教員の努力に委ねられていた。平成17年度以降は授業評価アンケート結果を分析し、授業担当全教員へのフィードバックを行うとともに、FD研修会を開催するなど、組織的に教育内容や教育方法に対する改善に取り組んだ結果、授業評価総合点は平成17年度から着実に上昇し、19年度に開講された授業評価総合点は3年間で最も高い授業評価を受けた。

④事例4「卒業時アンケートの実施」(分析項目Ⅰ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ)

(質の向上があったと判断する取組)

平成17年度から自己点検評価委員会を中心に卒業時アンケートを継続的に行い、集計、分析を行ってFDを開催するとともに、分析結果については教学委員会にフィードバックする体制を整備して授業方法の改善やシラバス作成に反映させている。卒業時アンケートを実施していなかった平成16年度時点では、教員と学生との個人的な接点の中で学業の達成状況や修得した能力が把握されていたが、卒業時アンケートの実施によって学生の卒業時の学業の達成状況、修得した能力を正確に把握し、学部が目指す教育目標である「科学的な思考能力と高度な技術と体系的な知識を身につけた人材を育成する」に対する達成度を継続的に評価することが可能となった。

平成18年度の卒業時アンケート結果から、学生は専門科目を総じて良く勉強しており、興味をもてる専門分野を見つけて適切な卒業研究指導を受け、課題設定・問題解決能力、

実験・研究能力、判断・洞察能力、論理的思考力、プレゼンテーション能力などを修得していることが明らかとなり、高い教育効果が上げられていた。また、学んだ専門分野と関連性が高い希望する進路先に進めたと評価されており、進路先は学部で修学した知識・技術を最大限活かすことの出来る職に就いていると判断できた。

SYLLABUS (2008) 抜粋

授業科目名	<p style="text-align: center;">土壤環境学 (Science of Soil Environment)</p>			
授業担当者	<p style="text-align: center;">西村 直正 (応用生物科学部)</p>			
開講時期	2年前学期	単位数	2	授業形態 講義
授業概要	<p>土壤は、動植物や微生物にとって重要な生育の場であると同時に、地域環境さらには地球環境の中で、水や各種物質・ガスおよび熱エネルギーの循環系の一部を担っている。本講義では、土壤の物理化学的性質と諸機能、および土壤中で生起する水・物質・エネルギー輸送の諸過程について解説する。さらに、土壤の諸特性や環境因子の把握に関する各種測定法を紹介する。</p>			
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 序論：土壤の生成と層位、および土の三相 2. 土壤鉱物の種類と表面電荷 3. イオンの吸着と交換 4. 粘土の分散と凝集 5. 土粒子の理工学性の測定 6. 有機物と団粒構造 7. 水の理化学性 8. 土壤水の保持機構と土壤水分の測定法 9. 土壤水のエネルギー状態 10. 土壤水分特性曲線 11. 飽和土壤水の流れ 12. 不飽和土壤水の流れ 13. 土壤中における溶質の輸送機構 14. 土壤圏における温度環境の形成機構 			
授業公開	可	学内の学生に限る。ただし、授業担当者に事前に連絡すること。		
その他	<p>テキスト：教科書は使用しない。講義資料を毎回配布する。 試験と成績評価：小テスト (90%) と出席 (10%) により評価する。 参考図書：ヒレル著、岩田・内嶋監訳「環境土壌物理学Ⅰ～Ⅲ」農林統計協会</p>			

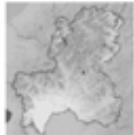
授業科目名	<p style="text-align: center;">植物生理学 (Plant Physiology)</p>			
授業担当者	<p style="text-align: center;">福井 博一 (応用生物科学部)</p>			
開講時期	2年前学期	単位数	2	授業形態 講義
授業概要	<p>植物生理学を植物体のレベルで解説する。特に植物の成長と養分吸収、光合成、物質の体内転流、植物ホルモンの反応性、花芽分化などとの関係を解説すると共に、実際の植物生産における実用例を紹介する。</p>			
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 植物器官の構成と機能 2. 養分吸収と水分生理 3. 植物体内の物質転流 4. 光合成と環境要因 6. 植物ホルモン 7. オーキシン 8. サイトカイニン 9. ジベレリン 10. アブシジン酸, エチレン, その他のホルモン 11. 花芽分化 12. 形態形成 			
授業公開	可	学内の学生・職員に限る。出来れば事前に連絡願いたい。		
その他	<p>テキスト：インターネットで講義録、講義資料を公開する。 試験と成績評価：期末試験 (80%) と出席 (20%) の総合成績で評価する。 参考図書：テイツ・ザイガー植物生理学第3版</p>			

教育プログラム「地域共学型の風土保全教育プログラムーぎふ公民館大学ー」
 (平成16年度現代GP採択)



文部科学省 特色ある大学教育改革支援 現代的教育ニーズ支援プログラム
 -現代GP-

ぎふ公民館大学
 Gifu Public University



↓下の画像をクリックしてください。
 各公民館大学の学習の様子を写真で見ることができます↓

最終更新日:2008/04/25

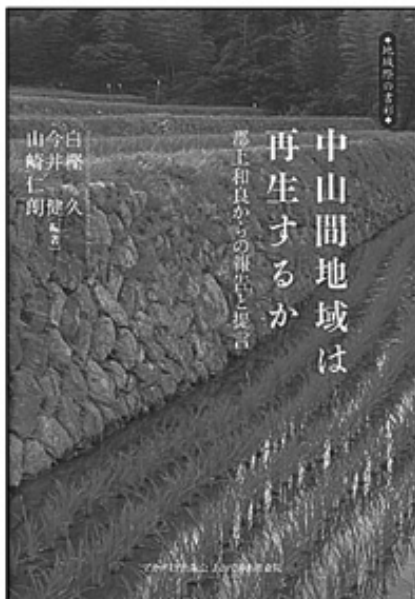


文部科学省の支援期間は終了しましたが、応用生物科学部と地域科学部ともに、ここで得た成果を活かした科目を、それぞれの学部で受講することができます。

■応用生物科学部
 風土保全教育プログラム(荘川・和良、飛騨市ほか)および風土保全教育プログラムⅡ(2回目の受講学生用プログラム)

■地域科学部

地域学実習(NPO法人の活動に関する学習や地域社会を総合的・多角的・歴史的な調査等を行う実習)



『中山間地域は再生するか—郡上和良からの報告と提言』が、あおぞら書斎院から出版されました(2008/4/30出版、税込み2940円、ISBN-13: 978-4870161368、一般書店でお求めください)。

今井 健教授(応用生物科学部)、山崎仁朗准教授(地域科学部)、荒井 聡教授(応用生物科学部)、伊原亮司准教授(地域科学部)、高木和美教授(地域科学部)、西村 貢教授(地域科学部)らによって、科学研究費補助金とともに、GPの取り組みを踏まえてまとめられたものです。

目次
 プロローグ いま中山間地域はどうなっているか
 1 集落と家族はどうなっているか
 2 産業と労働はどうなっているか
 3 健康と暮らしはどうなっているか
 エピローグ 「平成の大合併」とこれからの中山間地域

平成18年度教授会資料の抜粋（別表第2）

別表第2
学部開講科目

新						
別表第2-1 食品生命科学課程						
授業科目名	1年次		2年次		計	
	前学期	後学期	前学期	後学期		
新入生セミナー	△2				△2	
生物統計学			△2		△2	
廃止	削除				削除	
△印は必修科目，○は選択科目とする。 必修15単位を含め，18単位以上を修得する。						
別表第2-2 生産環境科学課程						
授業科目名	選択必修 科目の修 得単位	1年次		2年次		計
		前学期	後学期	前学期	後学期	
新入生セミナー		△2				△2
廃止		廃止				削除
△印は必修科目，□は選択必修科目，○は選択科目とする。 必修科目7単位，選択必修科目6単位を含め，17単位以上を修得する。						
別表第2-3 獣医学課程						
授業科目名	1年次		2年次		計	
	前学期	後学期	前学期	後学期		
新入生セミナー	△2				△2	
廃止	廃止				削除	
△印は必修科目，○は選択科目とする。 必修科目5単位を含め，15単位以上を修得する。						

旧						
授業科目名	1年次		2年次		計	
	前学期	後学期	前学期	後学期		
セミナー	△2				△2	
生物統計学			○2		○2	
応用生物科学汎論	△2				△2	
△印は必修科目，○は選択科目とする。 必修15単位を含め，18単位以上を修得する。						
授業科目名	選択必修 科目の修 得単位	1年次		2年次		計
		前学期	後学期	前学期	後学期	
セミナー		△2				△2
応用生物科学汎論		△2				△2
△印は必修科目，□は選択必修科目，○は選択科目とする。 必修科目9単位，選択必修科目6単位を含め，18単位以上を修得する。						
授業科目名	1年次		2年次		計	
	前学期	後学期	前学期	後学期		
セミナー	△2				△2	
応用生物科学汎論	○2				○2	
△印は必修科目，○は選択科目とする。 必修科目5単位を含め，15単位以上を修得する。						

別表第3-1

専門科目

食品生命科学課程

新											旧													
区分	授業科目名	1年次		2年次		3年次		4年次		計	区分	授業科目名	1年次		2年次		3年次		4年次		計			
		前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期				前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期				
食品科学コース	廃止					削除				削除	食品科学コース	食品製造化学							2			2		
	食品工学					2				2		食品工学							2			2		
	食品栄養学					2				2		食品栄養学							2			2		
	動物性食品化学					2				2		動物性食品化学							2			2		
	食品安全性学					2				2		食品安全性学							2			2		
	廃止					削除				削除		農産物物性学							2			2		
	ポストハーベスト生理学					2				2		ポストハーベスト生理学							2			2		
	食品マーケティング科学					2				2		食品マーケティング科学							2			2		
	廃止					削除				削除		フードシステム論							2			2		
	食品製造工学							2		2		新設												
	ポストハーベスト技術学							2		2		ポストハーベスト技術学									2		2	
	食品成分化学							2		2		食品成分化学									2		2	
	食品加工学						2	削除		2		農産加工学									2		2	
	食品流通システム科学							2		2		食品流通システム科学									2		2	
	食品免疫学							2		2		食品免疫学									2		2	
	食品経済学							2		2		食品経済学									2		2	
	食品関連法規							2		2		食品関連法規									2		2	
	食品微生物学							2		2		食品微生物学									2		2	
	公衆衛生学							2		2		公衆衛生学									2		2	
	廃止									削除		削除	土壌学										2	2
	廃止									削除		削除	動物比較生理学										2	2
	廃止									削除		削除	植物遺伝資源学										2	2
	廃止									削除		削除	施設園芸学										2	2
	廃止									削除		削除	作物品質評価学										2	2
	食品科学実験						△2	△2				△4	食品科学実験							△2	△2			△4
食品科学演習						△1				△1	食品科学演習							△1				△1		
インターンシップ実習								1		1	インターンシップ実習										1	1		
計						△3	△2			△5	計							△3	△2			△5		
						14	18	1	0	33								18	18	1	10	47		

別表第3-1

専門科目

食品生命科学課程 (分子生命科学コース)

新											旧														
区分	授業科目名	1年次		2年次		3年次		4年次		計	区分	授業科目名	1年次		2年次		3年次		4年次		計				
		前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期				前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期					
分子生命科学コース	バイオマス学				2					2	分子生命科学コース	バイオマス学				2							2		
	高分子化学				2					2		高分子化学				2							2		
	生理活性物質学						2			2		生理活性物質学							2				2		
	微生物機能学						2			2		微生物機能学							2				2		
	バイオリファインリー						2			2		バイオリファインリー							2				2		
	分子細胞生物学						2			2		分子細胞生物学							2				2		
	分子認識化学						2			2		分子認識化学							2				2		
	化学生態学						2			2		化学生態学							2				2		
	有機化学Ⅲ						2			2		有機化学Ⅲ							2				2		
	生物有機化学							2		2		生物有機化学									2		2		
	植物成分機能学							2		2		植物成分機能学									2		2		
	構造生物学							2		2		構造生物学									2		2		
	環境分析化学							2		2		環境分析化学									2		2		
	環境微生物学							2		2		環境微生物学									2		2		
	生命分子化学							2		2		生命分子化学									2		2		
	分子薬理学								2	2		分子薬理学										2	2		
	植物栄養学								2	2		植物栄養学										2	2		
	廃止								削除	削除		環境関連政策・法規と技術開発										2	2		
	廃止								削除	削除		土壌学											2	2	
	インターンシップ実習								1			1	インターンシップ実習										1	1	
分子生命科学実験						△2	△2			△4	分子生命科学実験							△2	△2			△4			
分子生命科学演習						△1	△1			△2	分子生命科学演習							△1	△1			△2			
計						△3	△3			△6	計							△3	△3			△6			
						2	2	14	12	5	0	35							2	2	14	12	7	2	39

別表第3-2
 専門科目
 生産環境科学課程（課程共通科目）

新										旧											
区分	授業科目の名称	1年次		2年次		3年次		4年次		計	区分	授業科目の名称	1年次		2年次		3年次		4年次		計
		前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期				前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	
課程共通科目	廃止			削除						削除	応用植物科学概論			△2						△2	
	廃止			削除						削除	応用動物科学概論			△2						△2	
	廃止			削除						削除	環境生態科学概論			△2						△2	
	生産環境科学概論Ⅰ		△2							△2	新設										
	生産環境科学概論Ⅱ			△2						△2	新設										
	一般遺伝学				2					2	遺伝学				2					2	
	生物系統分類学				2					2	生物系統分類学				2					2	
	動物発生進化学				2					2	動物発生進化学				2					2	
	生物化学				2					2	生物化学				2					2	
	生態系生態学				2					2	生態系生態学				2					2	
	動物基礎栄養学					2				2	新設										
	ビオトープ論					2				2	新設										
	農業・環境経済学					2				2	新設										
	植物栄養学				2					2	新設										
	土壌環境学				2					2	新設										
	植物生理学				2	削除				2	植物生理学				2					2	
	廃止					削除				削除	土壌学				2					2	
	分子遺伝学				2	削除				2	ゲノム科学					2				2	
	動物比較生理学					2				2	動物比較生理学				2		2			2	
	植物生態学					2				2	植物生態学					2				2	
	動物生態学					2				2	動物生態学					2				2	
	農業気象学					2				2	農業気象学					2				2	
	食料生産管理学					2				2	食料生産管理学					2		2		2	
	植物生産科学					2				2	新設										
	土壌圏生態学					2				2	新設										
	農業環境修復学					2				2	農業環境修復学					2				2	
	生産環境関係法規					削除	2			2	環境関係法規					2				2	
	廃止					削除				削除	資源植物学					2				2	
	細胞生物学					2				2	植物細胞工学					2				2	
	国際農業論			2	削除					2	国際農業論					2				2	
	草地生産利用学					2				2	草地生産利用学					2				2	
	地域資源学					2				2	地域資源学					2				2	
	農業生態学					2				2	農業生態学					2				2	
水圏環境生態学					2				2	新設											
科学英語Ⅰ					△2				△2	科学英語Ⅰ					△2				△2		
科学英語Ⅱ					△2				△2	科学英語Ⅱ					△2				△2		
フィールド科学実習Ⅰ	△1								△1	フィールド科学実習Ⅰ	△1								△1		
フィールド科学実習Ⅱ	△1								△1	フィールド科学実習Ⅱ	△1								△1		
フィールド科学実習Ⅲ		△1							△1	フィールド科学実習Ⅲ		△1							△1		
情報処理実習				△1					△1	情報処理実習				△1					△1		
科学英語演習							△1		△1	科学英語演習					△1				△1		
卒業研究							△2	△2	△2	△6	卒業研究					△2	△2	△2	△6		
計			△4	△3	△3	△2		△3	△2	△2	削除					△1				△1	
			△4	△3	△3	△2	2	△3	△2	△2	△19			△2	△1	△9	△2	△2	△2	△20	
					20	32	2				54					10	32			42	

別表第3-2
 専門科目
 生産環境科学課程（応用植物科学コース）

新							旧														
区分	授業科目の名称	1年次		2年次		3年次		4年次		計	区分	授業科目の名称	1年次		2年次		3年次		4年次		計
		前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期				前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	
応用植物科学コース	応用昆虫学					削除	2			2	応用昆虫学							2			2
	廃止					削除				削除	植物栄養学							2			2
	園芸学					2				2	園芸栽培論							2			2
	植物環境制御学					2				2	植物環境制御学							2			2
	植物病理学					2				2	植物病理学							2			2
	園芸植物栽培学					2				2	種苗生産学							2			2
	資源植物学					2				2	新設										
	環境水文学					2				2	新設										
	機器分析学					2				2	新設										
	食品栄養学					2				2	新設										
	ポストハーベスト生理学					2				2	新設										
	植物有用微生物学						1			1	新設										
	食料・農業政策学						削除	2		2	食料・農業政策学							2			2
	廃止						削除			削除	植物生産科学							2			2
	廃止						削除			削除	国際農業市場論							2			2
	廃止						削除			削除	アグリビジネス論							2			2
	応用植物科学実験及び実験法Ⅰ						△2			△2	応用植物科学実験及び実験法Ⅰ							△2			△2
	応用植物科学実験及び実験法Ⅱ						削除	△2		△2	応用植物科学実験及び実験法Ⅱ							△2			△2
	応用植物科学演習Ⅰ						△1			△1	応用植物科学演習Ⅰ							△1			△1
	応用植物科学実習Ⅰ						△1			△1	応用植物科学実習Ⅰ							△1			△1
	植物インターンシップ実習						1			1	植物インターンシップ実習							1			1
	植物保護学							2		2	植物保護学								2		2
	生理生態学							2		2	新設										
	栄養化学							2		2	新設										
	物理化学							2		2	新設										
	ポストハーベスト技術学							2		2	新設										
	食品流通システム科学							2		2	新設										
	食品関連法規							2		2	新設										
	食品衛生学							2		2	新設										
	化学生態学								2	2	新設										
	廃止							削除		削除	天敵生態学							2			2
	廃止							削除		削除	施設園芸学							2			2
	廃止							削除		削除	応用植物生理学							2			2
	廃止							削除		削除	作物品質評価学							2			2
	植物生産工学							2		2	植物工場学							2			2
	持続性植物生産学						2	削除		2	植物資源循環学							2			2
	廃止							削除		削除	植物遺伝資源学							2			2
	ゲノム科学							2		2	植物分子生物学							2			2
	植物バイオテクノロジー							2		2	植物育種学							2			2
	応用植物科学演習Ⅱ							△1		△1	応用植物科学演習Ⅱ							△1			△1
応用植物科学実習Ⅱ							△1		△1	応用植物科学実習Ⅱ							△1			△1	
分子植物科学特別講義Ⅰ								1	1	応用植物科学特別講義								1		1	
廃止								削除	削除	作業工学								1		1	
分子植物科学特別講義Ⅱ								1	1	新設											
分子植物病理学							1	削除	1	分子植物保護学								1		1	
農業学							1	削除	1	農業学								1		1	
農業生態管理学							2	削除	2	農業生態管理学								2		2	
廃止								削除	削除	土壌圏生態学								2		2	
廃止								削除	削除	保全生態学								2		2	
計						△4	△4		△8	計							△6	△2		△8	
						25	27	4	0	56								21	20	10	51